

社会福祉学研究科社会福祉学専攻修士課程 科目概要

科目名	分野名	概要	担当者
必修科目	社会福祉学特論	<p>(研究テーマ) 1) 福祉活動の歴史と主要な思想・理論・概念を学習する。 2) 福祉と哲学を関連づける思想として、QOL、ノーマライゼーションなどの理論を学習する。 3) 福祉(ケースワーク)思想の基礎となる哲学的人間観をケア(care)の意味と様態から考察する。</p> <p>(研究の流れ) 【課題1】古代から現代に至る世界の福祉活動の歴史をたどり、そのつどの活動を動機づけた主要な思想・理論・概念を探究する 【課題2】現代の代表的な福祉思想としてQOL、ノーマライゼーションなどの理論を取り上げ、その哲学的基礎を考察する。 【課題3】ケア(care)の意味と構造を理解し、福祉思想の基礎をなす人間観の全体をケアの意味と様態に従って構造化する。(研究のポイント)</p> <p>【課題1のポイント】福祉活動を動機づけた思想・理論・概念を修得し、それらを呼称する用語の意味領域を理解する。 【課題2のポイント】QOL、ノーマライゼーションなどの理論を考察し、その理論の中にある人間存在理解の哲学的基礎を解明する。【課題3のポイント】現代英語のcareの意味領域と人間存在および人間関係の様態を重ね合わせて考察し、ケアの意味と構造に従って人間存在の全体を分析し構造化する。それによって、福祉活動(福祉的人間関係)が人間存在の本質構造から必然的に由来することを理解する。</p>	栗栖 照雄
社会福祉学特論Ⅰ	障害者福祉論	<p>(研究のテーマ) 障害児・者の支援問題という枠組みの中で、発達障害児・者の福祉的支援問題を追求する。従って、知的障害(重度から軽度まで)、自閉症、学習障害、高機能自閉症、注意欠陥/多動性障害(AD/HD)について主たる対象とする。この知的障害、軽度発達障害といわれる人に対する福祉的支援について、療育期、学齢期、職業・社会生活への支援について検討を加える。ただ、このような人たちは、他の障害児・者に比べて診断・判別が非常に困難である。そのことを十分に視野(学問的、実践的)に入れて、その支援の「在り方」を追求する。</p> <p>(研究の流れ) まず、知的障害児・者や軽度発達障害児・者の療育活動(診断・判別も含めて)、学齢期における地域での福祉的支援、「学校から社会」への問題、社会生活における福祉的支援の問題について、それぞれ現状・実態がどうであるかを十分に把握することが重要である。そして、それぞれの支援方法も、システムまで視野に入れて考察を深める。(研究のポイント) 知的障害児・者、軽度発達障害児・者といっても、実際には非常に幅広く多岐にわたっているため、それぞれについての対象をできるだけ明確にして、その支援方法やシステム論を検討してください。</p>	山口 洋史
社会福祉学特論Ⅱ	福祉カウンセリング論	<p>(研究テーマ) ソーシャルワークの実践における臨床心理学的観点からの検討</p> <p>(研究の流れ) 研究の流れは、レポート課題と作成の手引きにあるようなことにならして進めていく。</p> <p>(研究のポイント) テキスト「カウンセリングの理論」およびカウンセリングの実践的な研究論文を参考にしながら、カウンセリングの各立場の理論や技法をソーシャルワークの実践に生かす方法等について考察する。</p>	高山 巖
社会福祉学特論Ⅲ	研究法・調査法	<p>(研究テーマ) 院生諸君に</p> <p>(1) 統計の基礎知識 (2) 社会調査の具体的方法を学んでいただき、今後の研究実践の役立たせることが目的である。</p>	三宅 邦建
社会福祉学特論Ⅳ	高齢者福祉論	<p>(研究テーマ) 高齢者福祉を社会的特性、政策、ソーシャルワークの3面から総合的に理解することを研究テーマとする。</p> <p>(研究の流れ) 明治期からの施策 および戦後の生活保護法に始まり、老人福祉法や各種社会保障分野における高齢者対策、そして介護保険法といった政策の内容と歴史的背景を理解した上で、高齢者の社会特性の一視点としての虐待を研究する。その後社会福祉援助技術の一つであるケアマネジメントについて検証し、わが国の介護保険に伴うケアマネジメントの展開について検証する。</p> <p>(研究のポイント) ・介護保険制度の理解はもちろんのこと、それまでの高齢者施策についても概観する。 ・高齢者虐待に関する国内外の文献を読み、多角的視点を持つ。 ・ケアマネジメントについて介護保険に限定することなくソーシャルワークの一環としての捉え方をし、ソーシャルワークの近接領域についても関心をよせる。</p>	山崎 きよ子
専門選択科目	社会福祉学特論Ⅴ	<p>(研究テーマ) 我が国の疾病構造は、慢性疾患、心因性疾患、免疫遺伝学的疾患等にみられるように、複雑な因子が関与する疾病が増加している。このような疾病構造の中では、原因を特定し、排除するという既存の価値観とは違う角度から、健康や疾病を捉える必要があり、ケア(care)よりもケア(care)が重要視される。また社会福祉や介護福祉においては、個々のニーズに合わせたケアが重要視される。このような背景の下、東洋医学を学習し理解することで、東洋思想をベースとした「アメニティ・ケア(amenity care)」を考察、構築する。</p> <p>(研究の流れおよびポイント) ①現代西洋医学と東洋医学(伝統医学)の違いについて、各々の価値観、歴史的変遷、役割の観点から学習する。 ②東洋医学の基本概念である「気」および「陰陽」について学習し、東洋医学の身体観および健康観を考察する。 ③東洋医学思想・経絡経穴・手技療法等を基盤とした「こころと身体は不可分(心身一如)である」と意識することから「快適介護福祉(アメニティ・ケア; amenity care)」について考察する。</p>	渡邊 一平
社会福祉学特論Ⅵ	社会福祉計画論	<p>(研究テーマ) 日本における地域福祉の推進と社会福祉諸計画が相互にどのように影響しあってきたかの「計画と実践の相互関係」並びに計画策定者と地域福祉推進の主体者の分析と今後に向けての課題を明らかにする。</p> <p>(研究の流れ) 1950年以降の日本における地域福祉の歴史と福祉諸計画策定・実行の過程を見ながら、その相互関係、相互作用を分析する。実行の過程では、コミュニティ・ソーシャルワークの応用が具体的にどのように活かされたのかも併せて研究する。</p> <p>(研究のポイント) 1. 地域福祉政策と理念 2. 福祉計画の理念と政策的位置づけ 3. 社会福祉の基礎構造改革と地域福祉の関係 4. 社会福祉法にみる地域福祉計画の特徴と地域福祉活動の展望</p>	塚口 伍喜夫
社会福祉学特論Ⅶ	身体健康福祉論	<p>我が国では高齢化が急速に進んでいる。高齢期になっても健康で生き生きとした生活を送ることは我々の願いである。「健康」を維持・増進するにはその土台となる身体自体の理解、健康に及ぼす身体活動の有効性、そして社会生活の中にある様々な身体活動について考えるということが求められる。これらの重要性を確認するために以下の課題を提出する。</p> <p>第1回 レポート課題 身体を動かす意味について健康との関連で考察せよ 第2回 レポート課題 高齢者の身体的な特性と機能的な特性について考察せよ 第3回 レポート課題 「スポーツ・レクリエーションと福祉」について考察せよ</p>	小川 芳徳
社会福祉学特論Ⅷ	看護福祉論	<p>(研究テーマ) 慢性疾患やハンディキャップと共存していくための、また、QOLの向上のための自己決定、自己管理・セルフケアの意義とその支援方法を追求する。</p> <p>(研究の流れ) 人々の医療における意思決定に際して、インフォームド・コンセントが推進され、病気をもつ人の自己選択や自己決定を尊重してQOLを高めることが重視されてきている。子どもにおいても、自己決定をdeveloping autonomyとして捉えて、その成長を前向きにサポートして実現できると考えられてきている。そこで、病気・障害をもつ人、子どもと家族に対して、病気や障害と共存するためにセルフケアを促進し、医療における自己決定を可能とする支援について検討する。そのために、保健医療、教育、福祉が協働して子どもと家族の支援を行う必要性和その方法についても検討する。</p> <p>(研究のポイント) まず、残存機能や個人の能力が最大発揮できるよう支援し、個人の生活に根ざした、個人の望むADLを目標としてQOLを向上できるよう自立支援する重要性、病気・障害をもつ人と家族に対して、自律性の発揮を助け、病気や障害と共存し、セルフケアを促進する意義、医療における自己決定や自らの選択を保障する意義について明らかにする。次に、慢性疾患やハンディキャップと共存する中で発生するさまざまな問題解決や、人々と家族を支えるために必要な、自己決定、自己管理・セルフケア支援方法を検討する。さらに、関係機関がそれぞれの専門性を生かしたネットワークの輪を拡げようとしており、保健医療、福祉、教育が協働して子どもと家族の支援を行うシステムの検討を行う。</p>	田辺 恵子

